

小学校 国語

(1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	51.1	51.0	51.1
大分県	51.6	51.3	51.9

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	66.2	71.7	53.8
宇佐市	69.9	74.9	58.4
大分県	70.8	75.5	60.4

(2) 観点別・領域別正答率

	観点			領域					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報扱い方 に関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞く こと	書くこと	読むこと
目標値	66.4	62.7	50.0	69.0	56.7	70.0	60.0	52.5	71.7
宇佐市	70.6	66.6	54.3	74.1	60.0	67.8	61.4	64.1	72.5
県	71.4	67.3	55.2	74.6	61.7	68.5	62.8	63.0	74.0
偏差値	50.6	51.8	52.5	50.8	50.3	49.9	50.3	53.8	49.7

(3) 結果のポイント

- 知識・活用とも偏差値50を上回っている。
- 領域別では、「書くこと」が県平均を上回り、他は県平均を下回っている。
- 「書くこと」の領域は、目標値を大きく上回っている。

(4) 授業改善のポイント

①課題のみられた問題に対する改善策

- 修飾と被修飾の関係は、文章の内容を理解する場合だけではなく表現する場合にも、**それぞれの文の中の語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解することが重要である。→取り立てて指導することが有効**
- 登場人物の行動の背景には、そのときのあるいはその行動に至るまでの気持ちがある場合が多い。そうした登場人物の気持ちを、**行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えていくことが求められる。**
- 知識・技能に示す事項は、思考力・判断力・表現力に示す指導事項を通して行うことが基本である。〔情報の扱いに関する事項〕については、「読むこと」の**「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えること」との関連を図り指導する。**

②今後の授業改善

- ◆言葉の特徴や使い方に  
関する事項について
  - 漢字の持つ意味を考えながら、文や文章の中で適切に漢字を使う指導の充実
    - ・漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字の持つ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導する。
- ◆話すこと・聞くこと(書くこと)について
  - 意図的・計画的な話し合い活動の充実
    - ・授業において、司会を含む話し合い活動を意図的かつ計画的に設定する。
    - ・各学年段階において、様々な形の話し合い活動を設定し、目的に合った司会を行う経験をさせることが重要。
      - 司会者：発言内容を聞き、意図、それぞれの違い、共通点等を聞き分け整理できるようにする。
  - アウトプットしたものに対する適切な指導の必要性
    - ・表現する場面において、話しぶりや書きぶりに不十分な点が見られる際には、丁寧に指導する。
- ◆読むことについて
  - 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる指導の充実
    - ・一つの場面の叙述だけを対象とするととどまらず、複数の場面の叙述を相互に関係づけながら読むことが重要。
    - ・高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写などを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるように指導する。

小学校 算数

(1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	51.4	51.2	51.5
大分県	52.9	52.9	52.4

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	63.6	69.3	52.7
宇佐市	65.4	70.6	55.5
県	68.5	74.1	57.8

(2) 観点別・領域別正答率

	観 点			領 域			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
目標値	69.3	51.0	51.4	66.1	62.9	68.0	51.3
宇佐市	72.4	49.9	51.8	68.6	61.4	70.5	55.3
県	76.1	51.8	53.7	71.5	64.5	73.7	59.0
偏差値	51.3	51.3	51.7	51.6	51.1	51.4	51.0

(3) 結果のポイント

- 知識・活用ともに偏差値 50 を上回っている。
- 観点別、領域別においてもすべて全国平均を上回っているが、県平均は下回っている。

(4) 指導の改善のポイント

①課題のみられた問題に対する改善策

- 十、百、千、万を単位として数の相対的な大きさを捉えるようにする。500 や 700 は百を単位とすると 5 や 7 とみられることから、 $500+700$  は  $5+7$  とみられる。⇒数の相対的な見方を活用し、数を捉えたり、数の大きさを比較したり、計算の仕方を考えたりできるようにする。
- 長さを実測して教室の面積を求めたり、求めた教室の面積をもとに、体育館の面積を予想するなど、量感覚を大切に指導を大切にする。問題解決学習の過程での予測等も含めて体験的に学ぶ工夫をする。
- 授業の中や個別指導の際には、立体模型を指でなぞって指導したあと問題を解かせるような工夫をする。
- 傾きが大きい折れ線グラフと傾きが小さい折れ線グラフを比較し、傾きと変わり方の大きさの関係を理解させる。
- 2次元の表は、目的に応じて集めたデータを2つの観点から分類整理できるようにすることが重要。本問題「5年生の図書室の利用調べ」では、先週利用した人が 56 人、今週利用した人が 48 人という事実が読み取れるが、利用者数が減っていることに気付くことができる⇒利用者の分析ができるツールとして2次元表を捉えることで、理解が深まり、定着が図れる。授業の中でも、本調査問題の児童の吹き出しのような考えが児童から出てくるような学習が単元の中に位置づくように計画ができるとよい。

②今後の授業改善

- 「知識・技能」の習得と「思考力・判断力・表現力」のバランスを重視し、単元の中で、既習の知識や技能、見方や考え方を活用し、問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるような場面の設定
- 見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する活動を重視した授業の充実
- 「筋道を立てて考え、理由を説明できるようになる」ため、日頃の授業の中で、「説明の基本形」等を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。
- 事実の説明：計算の性質、図形の性質や定義、数量の関係を記述すること、表やグラフ等から見いだせる傾向や特徴を記述すること、説明する対象を明らかにして記述すること
- 方法の説明：問題を解決するための自分の考えや解決方法を記述すること、他者の考え方や解決方法を理解して記述すること、ある場面の解決方法を基に別の場面の解決方法を考え記述すること
- 理由の説明：ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を記述すること、「AだからBになる」のように、理由(A)及び結論(B)を明確にして考えを記述すること

(指導の具体例)

- ★説明し合った後、友だちの考えを使い説明したり、問題を解く活動を取り入れたりする。
  - ・話し手は図や表に書き加えながら説明することも大切
  - ・聞き手がその話を理解しているかを、聞き手に問い返したり、同じことを言わせたりして理解を促すことが大切
- 習熟の程度に応じた指導の充実
  - 本時における児童のつまづきを想定し、個に応じた指導や支援を講じる。
  - ・机間指導による個別支援
  - ・学びの困難さに対する手立ての準備  
ワークシート、ヒントカード、具体物、体験的な活動、ICT の活用、デジタル教材 など

## 小学校 理科

### (1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	49.3	49.2	49.6
大分県	51.3	51.4	50.9

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	62.7	71.2	45.0
宇佐市	63.2	71.9	44.8
県	67.0	76.0	48.2

### (2) 観点別・領域別正答率

	観 点			領 域	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	物質・エネルギー	生命・地球
目標値	71.8	51.8	43.9	57.9	66.8
宇佐市	74.5	49.4	39.7	56.2	68.9
県	77.9	53.7	44.0	60.4	72.4
偏差値	49.8	48.8	49.0	49.3	49.4

### (3) 結果のポイント

- 知識、活用とも偏差値50を下回っている。
- すべての観点、すべての領域において、県平均を大きく下回っている。

### (4) 授業改善のポイント

#### ①課題のみられた問題に対する改善策

- 観察の視点を明らかにし、夜間観察などの体験的活動の工夫を行ったり、ICT教材を効果的に使って視覚化を図る。また、教室にある物や近隣の建物の方位を説明できるようにするなどして、日常生活において方位を意識できるようにした上で月や星の観察をすることも重要である。
- 閉じ込めた空気にかが加わる場合の体積やそのものの形の変化を関連づける活動を通して、その原理が生活の中でどのように使われているかを結びつける指導を行うことが重要である。
- 水の温まり方について、実験やICT教材を使った活動を展開するなど児童が実感を伴う理解へとつなげることが重要である。実験をする際には、生活場面でどのように利用されているかや何の変化を見取っていくのかを明確にし、実験の後に考察したことを交流する活動をもつようにする。
- 気体・液体・個体がそれぞれどんな状態を表すのかを理解させる。

#### ②今後の授業改善

- 器具や機器などを目的に応じて扱ったり、観察する際の視点を明確にしたりと体験的学習活動を工夫する。
  - また、観察や実験、さらにICTを積極的に活用し、児童が実感を伴う理解につなげていく。
- 単元を通して、問題解決学習を展開する。
  - ・自然の事物・現象から問題を見出す活動
    - 予想や仮説の設定、検証計画の立案を充実させる。
    - 児童が生活経験における自然・事象のイメージや概念と結びつけたことを表現する。
  - ・観察・実験の結果を基に考察する活動
    - 「結果からどんなことが言えるのか」を予想した考えや仮説から比較検討したことを表現させる。
  - ・結論を導き出す活動
    - 実験結果の妥当性や客観性を考え、自然の事物・現象について問題に対する答えを表現する。
    - 自然の事物・現象を利用して、身の回りで活用しているものを見つける。

(1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科合計	知識	活用
宇佐市	51.2	51.3	51.0
大分県	51.4	51.4	51.2

正答率	教科合計	知識	活用
目標値	62.5	66.8	54.4
宇佐市	69.5	74.4	60.4
県	69.8	74.5	61.0

(2) 観点別・領域別正答率

	観点			領域					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
目標値	65.0	58.4	51.0	67.2	45.0	85.0	60.0	58.8	56.7
宇佐市	73.6	64.3	56.6	76.1	52.0	94.6	63.1	68.9	62.4
県	72.8	65.0	57.4	76.0	48.8	92.6	64.1	70.9	61.9
偏差値	51.5	51.0	51.4	51.2	51.1	51.7	50.3	51.5	50.5

(3) 結果のポイント

- 知識、活用ともに偏差値は50を上回っているが、県平均よりやや低い。
- 観点別では、知識・技能が県を上回り、「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」は県を下回った。
- 領域別では、話すこと・聞くこと、書くことが県平均をやや下回り、他の4項目は県平均以上となった。

(4) 授業改善のポイント

①課題のみられた問題に対する改善策

- 紹介や報告など、伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べる活動を行う。
- 話題や展開をとらえながら、出された発言の内容を整理するには、話し合いの目的をしっかりとつかみ、それぞれの意見の共通点や相違点に着目させながらメモをとるようにする。
- 条件を用いて、複数の意見を結びつけて考えをまとめ表現させる場面を設定する。

②今後の授業改善

- 【話すこと・聞くこと】については、3つの身に付けさせたい力を単元を通して培っていく。
  - (1)話し合いの目的や話題を意識し、展開に沿って話したり聞いたりする力
  - (2)それぞれの意見の共通点や相違点に着目するとともに、それらを整理する力
  - (3)結論を出す際に、複数の意見を結び付けて考えをまとめる力
- 話し合いの目的や進め方などを共有しやすくするために、少人数での話し合い活動を仕組んでいく。
- ICT機器を積極的に活用することで指導の効果を高めていく。
  - 動画コンテンツを活用したり、実際に討論をする場面を録画して振り返ったりと、身に付けさせたい力を生徒に意識させることが重要となる。
- 国語科だけでなく、特別活動などの場面でも、3つの身に付けさせたい力を意識させた学習展開の充実を図り、教科横断的な指導をしていく。

(1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	50.8	51.0	50.3
大分県	50.5	50.7	50.0

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	56.5	59.3	50.0
宇佐市	57.8	60.9	50.6
県	57.3	60.4	50.0

(2) 観点別・領域別正答率

	観点			領域	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	地理	歴史
目標値	60.3	51.5	50.0	55.6	57.5
宇佐市	62.5	51.7	50.6	57.9	57.8
県	62.9	49.9	50.0	56.8	57.8
偏差値	50.8	50.7	50.3	50.7	50.8

(3) 結果のポイント

- 知識、活用ともに偏差値50を超えている。
- 観点別では、「知識・技能」がやや県平均を下回っているが、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は県平均を上回っている。
- 領域別では、歴史は県平均と等しく、地理は県平均を上回っている。

(4) 指導の改善のポイント

①課題のみられた問題に対する改善策

○生徒がどの段階でつまづいているのかを把握し、支援・指導にあたるようにする。

- 1.【資料から情報を取り出す】
- 2.【情報を比較する】
- 3.【読み取った情報と既習内容を関連付けて考察する】

	(1)ヨーロッパの食料自給率	(3)武士のおこり
1.	ヨーロッパの国々の位置関係	時代の流れの中で、貴族が現れ、武士が力をつけていったこと。
2.	ヨーロッパの農業地域を示した資料から、その地域で栽培されているものを読み取る	地方の武士が荘園支配者の館を守っている。都の武士が貴族を警護している。
3.	②をもとに既習内容と関連づけながら、ヨーロッパの国々の食料自給率について考察する。	権力者を守り功績をあげ、結びつくことで力をつけ始めるようになった。

○考察したことを十分な時間を確保して表現する活動を単元に1回は確保するなど、学んだことを自分の言葉で表現できるような場を設定する。

②今後の授業改善

○資料をもとに考察する際、下記(1)～(3)のどの段階でつまづいているのか実態把握し、支援・指導していく。

- (1) 複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階
- (2) 取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階
- (3) 比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って考察し、記述する段階

○複数の資料から情報を取り出し、関連付けて、社会の中にある問題を見付けたり、その解決に向けて考えたりする場面を設定する。

○グループ等による学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、自分の考えについて意見をもらったりする場面を設定する。

○自分の考えを記述する時間を保障する。

(1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	50.8	51.4	49.4
大分県	51.2	51.4	50.3

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	58.8	60.2	55.0
宇佐市	60.1	63.4	51.4
県	60.9	63.6	53.8

(2) 観点別・領域別正答率

	観 点			領 域			
	知識・技能	思考判断表現	主体的に学習 に向かう態度	数と式	図形	関数	資料の活用
目標値	61.2	50	51.9	65.4	57.2	50	56.7
宇佐市	63.4	47.8	49.2	72.3	56.5	54.7	46.7
県	63.7	50.6	50.9	71.1	57.6	56.8	49.6
偏差値	51.2	49.4	49.9	52.1	50.0	50.2	49.7

(3) 結果のポイント

- 知識は偏差値50を上回っているが、活用は下回っている。
- 観点別では、「知識・技能」はほぼ県と等しいが、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に向かう態度」は県を下回っている。
- 領域別では、「数と式」は県を上回っているが、「関数」や「資料の活用」で県を下回っている。

(4) 指導の改善のポイント

①課題のみられた問題に対する改善策

- 問題解決の場面で方程式を活用する際に、問題の中にある数量やその関係を捉え、一元一次方程式をつくることができるように指導する。その際、線分図などで整理して数量の関係を捉える活動を取り入れるようにする。
- 独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現できるように指導する。関数の意味をさらに理解させるために、独立変数を決めても従属変数がただ一つに決まらない例をあげるなどして、独立変数と従属変数との違いを考察する活動を取り入れるようにする。
- グラフと具体的な事象を対応させ、グラフ上の点が具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を取り入れ、与えられたグラフから必要な情報を適切に読み取ることができるように指導する。
- 観察や操作する活動を通して図形がもつ特徴を数学的に捉え、その操作を基本的な作図と結びつけて考えることができるように指導する。例えば、紙を折るという操作を通して、等しい線分や角を見だし、折り目の線がどのような直線になるかを考え、その上でどのように直線を作図すればよいかを判断できるように指導する。
- 大きさの異なる二つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を通して、相対度数の必要性を理解できるように指導する。データの特徴を捉えるために、代表値を求めることができるように指導する。その際、目的に応じてデータ全体を表す指標としてふさわしい代表値を選択し、それを的確に求める活動を取り入れるようにする。
- 日常の事象を図形の形や大きさ、構成要素や位置関係に着目して観察することで、図形の性質や関係を用いて事象の特徴をよりの確に捉えることができるように指導する。
- 日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導する。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実することが大切である。

②今後の授業改善

- 「知識や技能を用いる場面」を使って説明し合う場を設定する。
  - ・深い理解につなげるための「問い返し」の工夫
- 数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し合う場面を充実し、過不足ない説明か見直し、再構成する場面を設定する。
  - ・ゴールとなる表現(説明・記述)を教師が持ち、指導支援を行うことが大切
- 日頃の授業の中で、『説明の基本形』を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。
- 全国や大分県調査問題や問題データベースを授業づくりの参考にする。

## 中学校 理科

### (1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	51.0	51.1	50.5
大分県	50.9	50.9	50.8

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	54.8	58.9	45.5
宇佐市	54.6	60.4	41.2
県	54.5	60.0	41.8

### (2) 観点別・領域別正答率

	観 点			領 域			
	知識・技能	思考判断表現	主体的に学習に向かう態度	エネルギー	粒子	生命	地球
目標値	57.8	52.1	45.8	55.0	52.5	65.0	45.0
宇佐市	58.2	51.2	41.4	53.2	51.2	72.9	37.3
県	58.2	51.0	43.8	53.6	51.1	72.4	37.1
偏差値	51.1	50.8	50.6	49.2	50.6	52.4	50.8

### (3) 結果のポイント

- 知識、活用ともに偏差値50を超えているが活用が県平均を下回っている。
- 観点別では、「主体的に学習に向かう態度」、領域別では、「エネルギー」でやや県を下回っているが、全体的に県平均とほぼ等しい。

### (4) 指導の改善のポイント

#### ①課題のみられた問題に対する改善策

- 観察・実験の結果のグラフを分析して解釈できるようにすることが大切である。指導に当たっては、縦軸を従属変数、横軸を独立変数として観察・実験の結果をグラフに表したり、複数のグラフを比較して、変化の特徴や規則性を見いだしたりする学習場面を設定することが考えられる。
- 観察・実験から得られた情報と習得した知識・技能を活用して、考察を検討して改善できるようにすることが大切である。指導に当たっては、例えば、光の直進と反射についての知識・技能と「カップの中にコインをいれてから水を入れると、コインが浮き上がって見える」という情報とを活用して、光の道筋を説明する学習場面を設定することが考えられる。その際、個人の考察をグループで検討して改善し、考察をより妥当なものにすることが大切である。
- 地層の重なり方や地層に含まれる化石などの観察記録についての結果を分析し、解釈して、過去の堆積環境などについて推定し、根拠に基づいた考察を他者に説明する活動を取り入れるようにする。
- 生徒自身が自然の事象に働きかけ、問題を見いだして課題を設定し、科学的に探究する学習活動を計画的に実施する。また、実験方法を考えたり、結果を分析して解釈する場面等では、自分や他者の考えを検討したり、改善したりして、自分の考えを表現できるようにすることが大切である。

#### ②今後の授業改善

- 課題解決に向けて、見通しを持って思考を進めていく。
- 観察・実験の結果、図や表から読み取ったことを言語化して、考察、説明する。
- 科学的に探究することを通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる。

(1) 偏差値及び正答率

偏差値	教科全体	知識	活用
宇佐市	49.9	49.9	50.0
大分県	50.0	50.0	50.0

正答率	教科全体	知識	活用
目標値	55.8	57.2	52.5
宇佐市	55.2	57.1	50.9
県	55.3	57.2	50.9

(2) 観点別・領域別正答率

	観 点			領 域		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	聞くこと	読むこと	書くこと
目標値	61.7	48.7	51.2	57.2	60.4	48.0
宇佐市	61.8	47.3	50.4	54.5	59.4	50.1
県	61.2	48.1	50.3	52.5	59.5	51.7
偏差値	50.2	49.7	49.8	50.1	50.0	49.8

(3) 結果のポイント

- 知識が偏差値50をやや下回り、活用は偏差値50となった。教科全体も偏差値50をやや下回った。知識、活用ともほぼ県平均と等しい。
- 観点別は「知識・技能」「主体的に学習に向かう態度」が県をやや上回り、「思考・判断・表現」が県を下回った。
- 領域では「聞くこと」において県を上回っているが、「読むこと」「書くこと」において県を下回った。

(4) 指導の改善のポイント

「読むこと」から「話すこと・書くこと」へ…

暗唱、ロールリーディング、リテリング、感想を書く、要約文を書く、など。

○生徒が授業の中で「英語にふれる機会」を最大限に確保する。

- ・授業は、英語での意味のやりとりを中心に行う。
- ・生徒が自分の考えや気持ちを表現できるような機会を多く設定する。

○例文等を用いて「型」をもとに学習を進めるのではなく、様々なやりとりを実際に行う場面を設定し、いろいろなやりとりの仕方(答え方)があることを学ばせる事が重要である。実際に授業の中で、ペアワーク等を行い、示された例文をもとにしながら、自分で、または、友だちと協働しながらやりとりを考え、全体に広げるなどの工夫が必要である。

○基本的な語彙や場面に応じた応答の仕方については、教師と生徒、生徒同士のやり取り等を日常化し、指導の際に、目的や場面、状況を設定した言語活動の中で、様々なやり取りを通して、答え方にはいろいろあることを学ばせる。また、やり取りの後には、自分の表現した内容を書かせる。

★指導の具体例

「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる力」を育成するための学習過程

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しをもつ。
2. 英語を聞き、応答すべきことを捉える。
3. 考えや情報などを整理し、表現する。
4. 考えや情報などを再整理し、表現を改善する。
5. 学んだことを言語活動で再び活用し、学習を振り返る。



## 【小学校】

◎全国を5ポイント以上上回る項目 ※数値は肯定値%(良好な回答の合計)

番号	質問	宇佐市	全国
1	あなたは、学校生活の中で何回くらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。	62.1	48.3
2	クラスや友だちの間に話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか。	64.7	55.4
3	クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見が違って、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。	68.1	59.2
4	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。	87.1	78.6
5	学校の授業以外で、週に何回位運動していますか。(だいたい毎日、週4~5日)	55.7	46.0
6	テストで間違えた問題は、あとでやり直しをしていますか。	84.3	78.1
7	小さい子や、お年寄りがこまっているときは、まよわず手助けしていますか。	77.4	71.5
8	つらかったとき、くやしかったとき友だちからのやさしい言葉で、心がなぐさめられたことがありますか。	80.1	74.6
9	4年生までで受けた授業の最後に学習内容のまとめやふり返りをよく行っていたと思いますか。	82.0	76.2

▲全国を5ポイント以上下回る項目

番号	質問	宇佐市	全国
1	家で授業の予習や復習をしていますか。	40.6	53.3
2	読書は好きですか。	62.6	75.0
3	自分のことが好きですか。	52.0	61.8
4	いじめを見たり聞いたりして、心を痛めることがありますか。	69.3	78.6
5	信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。	51.7	58.9
6	家で週に何日くらい勉強しますか。(ほぼ毎日、4~5日の合計)	68.4	75.4
7	学校に持っていくものは、前の日のうちにたしかめていますか。	72.7	79.2
8	学校に行くのは楽しい。	76.9	83.4
9	仲間はずれになるのがこわくて、本当は気がすまないのに、友だちの意見に合わせたり、いっしょに行動したりすることがありますか。	70.4	76.0
10	同級生や上級生、他校の人などから、いやなことを無理やりさせられたり、ひどいらんぼうを受けたりすることがありますか。	87.3	92.4
11	分からない言葉が出てきたときは、辞典などを引いて調べていますか。	58.7	63.8

○全体的に「家族・友だちの支え」「充実感と向上心」「規範意識」「社会参画」が高いと言える。

○全国と比較して、「家族・友だち・先生の支え」「社会参画」「規範意識」「思いを伝える力」が高いが、「いじめのサイン」「対人ストレス」「生活習慣」が低い傾向にある。

○「自分のことが好き」「学校に行くのが楽しい」が低い傾向にある。昨年度も課題に挙げられた2項目で、引き続き、個を大切に、小さなサインも見逃さない取組が重要である。

▲その他の回答様式で改善が見られる項目・課題が見られる項目

1	平日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聴いたりしますか。	3時間以上 18.2%(全国 20.0% 県 16.2%) R3 18.6% R2 21.3%
2	土日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聴いたりしますか。	3時間以上 32.1%(全国 31.3% 県 28.0%) R3 33.0% R2 36.7%
3	平日1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	2時間 9.2%(全国 4.5% 県 11.3%)R3 11.1% 2.5時間 8.3%(全国 2.0% 県 5.9%)R3 7.1% 3時間以上 20.3%(全国 3.0% 県 14.8%)R3 16.0%
4	土日1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	2時間 15.2%(全国 7.8% 県 14.5%)R3 12.7% 2.5時間 12.0%(全国 3.5% 県 8.8%)R3 9.0% 3時間以上 31.4%(全国 7.5% 県 27.6%)R3 30.2%
5	平日1日当たりどれくらいの時間、コンピュータやスマートフォン等で通話やメール、インターネットをしますか。	2時間 6.0%(県 3.8%) R3 8.4% 2.5時間 4.4%(県 2.8%) R3 3.7% 3時間以上 9.5%(県 5.5%) R3 11.7%
6	土日1日当たりどれくらいの時間、コンピュータやスマートフォン等で通話やメール、インターネットをしますか。	2時間 6.7%(県 4.5%) R3 9.1% 2.5時間 3.7%(県 2.9%) R3 4.4% 3時間以上 11.8%(県 8.1%) R3 20.5%

○テレビやビデオ・DVDの視聴時間、コンピュータやスマートフォンは、わずかに減少しているが、ゲーム、インターネットが平日、土日ともかなり増加しており、メディア全体として増加している。

○小中が連携したメディアコントロールの取組、保護者への啓発も引き続き必要である。

## 【中学校】

◎全国を5ポイント以上上回る項目 ※数値は肯定値%(良好な回答の合計)

番号	質問	宇佐市	全国
1	家の人あなたの気持ちを分かってくれていますか。	88.3	82.1
2	家の人、あなたが努力してがんばったとき、それをほめてくれますか、認めてくれますか。	90.5	85.1
3	近所の人に会ったときはあいさつをしていますか。	88.8	75.6
4	あなたは、友だちの表情などから今の心を思いやり、自分だったらどうしてほしいか、それをよく考えてから行動する方ですか。	83.3	77.8
5	あなたは学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。	36.4	30.7
6	家で週に何日くらい勉強しますか。(ほぼ毎日、週4~5日の合計)	70.6	64.1
7	家で授業の予習や復習をしていますか。	52.7	47.1
8	家の人から言われなくても、進んで勉強している。	64.6	57.2

▲全国を5ポイント以上下回る項目

番号	質問	宇佐市	全国
1	本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。	39.3	48.6
2	仲のよい友だちから、自分がどう思われているか、つい気になってしまうことありますか。	57.3	66.1
3	信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。(一度もない、けんかしても傷つくことはないの合計)	57.3	66.7
4	1日の勉強時間はどれくらいと、めやすを決めていますか。	39.3	47.3
5	分からない言葉が出てきたときは、辞典などを引いて調べていますか。	57.3	63.9

○「規範意識」「家族の支え」「思いを伝える力」「学習習慣」の肯定値が高い。

○「対人ストレス」「いじめのサイン」の肯定値が低く、生徒一人ひとりの様子や友だち関係について、チームとして組織的な生徒指導が重要である。

▲その他の回答様式で改善が見られる項目・課題が見られる項目

1	平日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。	3時間以上 20.4% (全国 22.9% 県 12.8%) R3 14.0% R2 18.2%
2	土日1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。	3時間以上 35.4% (全国 48.8% 県 30.9%) R3 32.4% R2 39.5%
3	平日1日当たりどれくらいテレビゲームをしますか。	2時間 18.2%(全国 5.1% 県 15.4%) R3 14.9% 2.5時間 8.5%(全国 1.3% 県 7.2%) R3 7.4% 3時間以上 28.4%(全国 2.9% 県 19.8%) R3 19.8%
4	土日1日当たりどれくらいテレビゲームをしますか。	2時間 14.8% (全国 10.8% 県 13.6%) R3 11.7% 2.5時間 7.5% (全国 3.6% 県 8.7%) R3 10.5% 3時間以上 48.8%(全国 12.0% 県 42.5%) R3 43.8%
5	平日1日当たりどれくらい携帯・スマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。	3時間以上 14.3%(県 10.3%) R3 11.7%
6	土日1日当たりどれくらい携帯・スマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。	3時間以上 22.1%(県 19.3%) R3 20.5%

○テレビ・DVDの視聴時間は、平日、土日ともに増加している。

○ゲーム3時間以上の割合が、全国に比べて、依然としてかなり高い。

○携帯・スマートフォンについては、平日・土日とも昨年度より増加している。

○メディア全般において使用が増加し、全国・県に比べてもかなり長い時間を費やしていることが分かる。引き続き家庭と連携し、メディアコントロールを呼びかけていく必要がある。